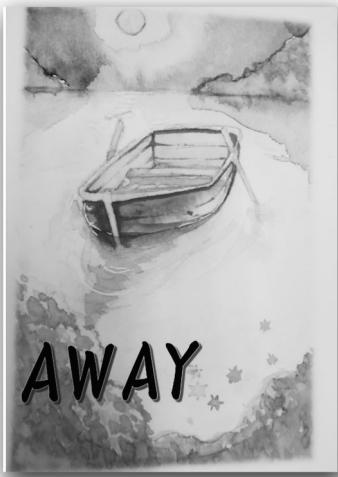


第一席

AWAY

愛知県立豊橋西高等学校



豊橋西高等学校文芸部は、週に三回、俳句・短歌などの創作を中心に行っています。言葉を使って表現する楽しさを大切にしながら、皆で切磋琢磨しています。

また、年に二回文芸部誌「AWAY」を発行しています。文化祭で発行する本誌は、生徒及び一般の方々に販売しています。今回のAWAYは、詩、小説、短歌、俳句などの様々なジャンルを通して、この夏に行われた俳句甲子園の全国大会への道のりが読み取れるものとなっています。大会までの苦悩や努力、楽しかった思い出がこの一冊に詰まっています。

(二年 田中 茜)

第二席

イナカプレス

愛知県立成章高等学校



成章高等学校新聞文芸部では年に一回、「成章祭」と呼ばれる九月の文化祭行事に部誌「イナカプレス」を発行し、生徒及び一般の方へ配布しています。今年は、三年生二人、二年生八人、一年生三人の合計十一人で作しました。

今年のテーマは「創作入試問題集」です。昨年までの三年間続けたイナカプレスとは一味違った形式に挑戦してみました。昨年までの形式に、さらに工夫を凝らした本作は、さらに面白く仕上がったと思います。新しいイナカプレスをぜひともお楽しみください。

(二年 山内 楓菜)

こんぺいとう 第十三号

愛知県立常滑高等学校



私たち常滑高校文芸部は、小説や詩、俳句、短歌など様々なジャンルの創作活動を行っています。作品の発表や鑑賞もしながら、コンクールに応募し、それらの作品を載せた部誌『こんぺいとう』を年に二回発行しています。

今年の創作テーマは「もしも羽根が作れたら、今を抜け出す」です。現状に不満を感じているわけではないが、何か現状を変えたい。その何かに気づき、きっかけを作り、前に進みたい。そんな思いが込められています。部員それが表現した作品を楽しんでいただきたいです。

今回の部誌では、「しりとり俳句」、「十年後」などの企画を充実させ、昨年の反省を生かし、部誌の構成を考え、楽しく読めるよう工夫しました。今年はより丁寧に時間をかけ、部誌と向き合い、制作することができます。

部員は創作活動だけに留まらず、アートフェスタに委員として参加し、他校の文芸部だけでなく、文化部の活動を通して、たくさんのこと学ぶことができました。これらの経験を生かし、これからも新しいことに挑戦していきます。

(二年 石塚江莉奈)

卵と雛の突然変異

愛知県立国府高等学校



国府高校文芸部では、春と秋の二回、部誌『卵と雛の突然変異』を発行しています。

今回の部誌は部員が増えたこともあります、各々力の籠もつた作品ばかりで例年以上のページ数となりました。その分印刷や誤字・脱字のチェック等も大変ではありましたが、自分たちの作品をしつかり見直すい時間にもなったと思います。

また、今回は体裁を揃え、より一層読みやすくするということにも力を入れましたが、元々の部誌特有の緩さも残し、読みやすく、けれど自分たちが作っていて楽しいものに仕上りました。今後ともこの部誌をより良いものとしていけるように、部員一同頑張っていきたいと思います。

(二年 森崎 智子)

審査員特別賞

『文學帖』 第十一号

私立名古屋高等学校



名古屋高校 文学部

その句作のなかで出た作品を多数掲載しています。それぞれ部員独特の世界観が存分に溢れだしている作品があり、たいへん楽しめるものになつてゐると思います。小説では、特集として「重箱の隅をつついて蛇を出す」を掲載しております。本当ならしなくてもよかつたのに細かいことばかりつづいて災難なことになる人物を意識して、作られた作品の数々を楽しんでいただけたらと思います。全体を通して例年よりもボリュームのあるものとなつていると思いま

(二年 鬼頭 孝幸)

この度名古屋高校文学部より『文學帖』第十一号を発刊することができます。名古屋高校文学部の特徴でのた詩・小説・俳句・短歌・論文が『文學帖』十一号につまっています。表紙のデザインなどは今年になり例年のポップな形から変わり、シックなものになりました。名古屋高校文学部では、俳句甲子園という夏の舞台をめざして俳句部門は日々練習しており、その句作のなかで出た作品を多数掲載しています。それぞれ部員独特の世界観が存分に溢れだしている作品があり、たいへん楽しめるものになつてゐると思います。小説では、特集として「重箱の隅をつついて蛇を出す」を掲載しております。本当ならしなくてもよかつたのに細かいことばかりつづいて災難なことになる人物を意識して、作られた作品の数々を楽しんでいただけたらと思います。全体を通して例年よりもボリュームのあるものとなつていると思いま

ユニコーンは、私たち安城高校の文芸誌です。創刊は、一九八六年（昭和六十一年）で、今年で三十三年を迎えます。年六回の発行で、文化祭の時には、創刊号から全てのユニコーンを展示し、卒業生の先輩たちにもみてもらっています。文化祭では、「はいくであそぼ」と題して、クイズ形式で俳句を皆さんに作ってもらいました。

日頃は、小説・詩・短歌・俳句・イラストと自分の好きな分野で挑戦していますが、今年の文化祭号（一八一号）は、二〇一二年度から八年間の俳句の全国大会をはじめ各大会の結果をまとめました。

(二年 岩瀬 可瑚)



ユニコーン

愛知県立安城高等学校

Pinnacle

愛知県立一宮高等学校



文化祭特別号 其ノ壱

私たち一宮高校文芸部は、昭和から令和になつた今に至るまで続く伝統ある部活です。年に二回部誌を発行し、小説や詩、イラストの制作をしています。

現在、部員は七名で七色の虹のように一人ひとりが個性あふれる作品を日々創作しています。アットホームな雰囲気で、時にはお互いの作品に意見を出し合い、より良い作品ができるよう高めています。
これからもなお一層創作活動に励み、一宮高校文芸部の名を響かせたいと思います。

(二年 平嶋 希光)

一宮南高校文芸部誌、花鳥風月は、今回で七回目の発行となります。新しく入部した一年生も今回初めて執筆に参加しました。まだまだ未熟ながらも、それぞれの思うまま自由に表現をしています。号を重ねるたび花のよう、鳥のように、風のように、月のように、花鳥風月は変化し続けます。それが一宮南高校文芸部誌、花鳥風月の良さの一つではないかと思います。

(二年 九日 若菜)

花鳥風月

愛知県立一宮南高等学校



第七号

雅人

愛知県立蒲郡高等学校



私達は総勢十七人で活動しています。年三回、夏・秋・春に部誌「雅人」を発行しています。サブタイトルと毎号のテーマは、部員全員で話し合って決めています。今号は特にテーマは決めず、秋らしい作品を掲載するということで編集しました。テーマを決めないからこそ、それぞれの作品の個性が際立つものになっていると思います。楽しんでいただけたら幸いです。

よりよい作品を創作するため、日々部員全員、切磋琢磨しています。

(一年 酒井 七海)

文芸幸田 32

愛知県立幸田高等学校

幸せの田んぼ、幸田高校では、週に四日、俳句・詩・短歌などの創作活動を行っています。今年は一年生が多く入部し、男女・学年の壁を越えて日々の創作に力を入れています。

文芸部では、年に二回、文芸部誌を発行しています。最新の文芸幸田のテーマは「夏」と「祭り」です。個性のあふれる作品が多く載っています。二年生八人、一年生七人で、より良い作品を制作できるように日々頑張っています。

(二年 清水 直弥)



季刊誌『蠍蠍』夏号^{いもり}

名古屋市立向陽高等学校



部誌は名古屋市立鶴舞中央図書館にも置かせていただいている。興味のある方はぜひお読みください。
(二年 久保田詩音)

季刊誌『蠍蠍』最大の特徴は?

——向陽高校文芸部オリジナルの企画作品です。

- ・共通の基本設定を守ればどんな展開でもOK、毎回書き手が変わる連載小説「けいちやん」
- ・読んだことの無い実在する本を題材に、「あたかも」読んだことのあるようには想像を言い合う「架空図書館」
- ・解説は各自自由、なぜか一風変わったお題になる「だいたい千文字ショートショート」
- ・有名なおとぎ話のワンシーンを斬新なアレンジで切り取る「おとぎ話リメイク」

前二本は先輩方から引き継いだ恒例企画、後ろ二本は今年からの新企画です。どれも部員の個性が光る企画となっています。

『淡雲苑～菊開月～』は、文化祭で配布するための文芸部誌として部員全員で製作しました。

文化祭企画号とは、その名の通り、部員で企画をし、その企画に合わせてそれぞれが作品を書いてくるというものです。今年の企画内容は、一人一つずつセリフまたはタイトルを考えてきてもらい、ファンタジー小説といつた小説ジャンルと合わせてくじを引き、自分が引いたお題に合わせて作品を書いてくるというものでした。普段書かないようなお題を引き、苦労した部員もいましたが、それが個性を持ち合わせ、今年も素敵な部誌が出来上がったのではないかと思います。

最後までお楽しみいただけたら幸いです。

(二年 雪田 実那)

淡雲苑～菊開月～

名古屋市立桜台高等学校



COSMOS

愛知県立時習館高等学校



本校では年に二回、文学部誌『COSMOS』を作っています。小説に短歌、俳句、詩、付け句を始めとした文学作品に加え、イラストも多数収録した物となっています。

百十一冊目の今回は、それらと共に「花言葉」をテーマにした作品も詰め込まれています。同じテーマから生まれる、嬉しく、優しく、悲しく、切ない——同じ物など一つも存在しない作品集に仕上りました。

製本以外は全て部員の手作業で作られた百頁越えの文学誌。

この一冊から時習館高等学校文学部の活動、そして文学という終わりの無い世界に少しでも興味を持つて貰えたならば——

一部員としてこれほど嬉しいものはありません。

(1年 大旗奈津子)

HEAVEN'S WHITE Vol.43

愛知県立天白高等学校



私たち天白高校文芸部は、夏と冬に部誌を発行します。夏部誌は文化祭で販売し、冬部誌は翌年のアートフェスタに向けて制作します。

部員は一年生十一人、二年生十一人。数か月に一度、お題を決めてそれに沿った絵や小説を作り評価しあう「講評会」を行っています。

今回の夏部誌「HEAVEN'S WHITE Vol.43」は、一年生にとっては初めての部誌でした。慣れない中でも皆素敵なお絵や小説を作ってくれました。二年生は昨年度の経験を活かし、以前よりも良い作品を作ることができたと感じています。

これからも、より良い作品を作っていく様に頑張っていきたいです。

(2年 渡辺恵莉菜)

universe

愛知県立豊田東高等学校



(二年 今原 茉奈)

現したい物をさまざまに描いています。ぜひ、手にとって見てみてください。

私たち豊田東高校文芸・イラスト部は、絵や文が好きな人や絵について専門的に学んでいる人などからなる個性豊かな仲のいい部活です。日々の活動では、皆で机を寄せて絵や文を書きながら、お互いの作品を見合い、意見交換して、絵や文の技術を向上させています。自分以外の意見を取り入れることで、普段の作風とは違った新鮮な絵や文を作ることが出来ます。

私たちの主な活動は、日ごろの活動以外に、文化祭での部誌などの販売と、豊田市民文化センターで開催される文化部総合フェスティバルでのイラストの展示です。文化祭では部誌の他にも、ポストカードや、イラストボード、ラミネートカードも販売しており、毎年たくさん的人が訪れてくれます。一方、文化部総合フェスティバルでは、一つのテーマを皆で決めて作品を制作しています。今回の部誌は、テーマが幅広いので、各々が表

私たち豊橋東高校文学部は、一年に自己紹介冊子、文化祭冊子、春冊子の三部を発行します。文化祭冊子と春冊子では、予め部員で話し合い、設けたお題に沿って創作活動を行います。

今年の文化祭では、「雨」と「レトロ」をテーマに「レイニーメモワール」という題で冊子を発行しました。部員全員が真剣に制作に取り組み、小説、イラスト等個性がよく表れたものになりました。文化祭では、多くの方々に部誌を手にとつていただけてとても有り難く思っています。

活動日は週二日で、部員同士で意見交換をしつつ和気あいあいとした雰囲気で活動に励んでいます。

大変なこともあります。全員で協力しながら日々努力し、より多くの人に楽しんでいただきたいです。

(一年 山本日輪子)



レイニーメモワール

愛知県立豊橋東高等学校

寄木細工 第五十二号

愛知県立豊橋南高等学校



豊橋南高校文芸部は、毎週火曜日と金曜日の週二回活動しています。また、毎年文化祭に文芸部誌を発行しています。内容についても全員が自由に書き、ふざける作品、シリアスな作品、何でもありなものとなっています。やはり書く時にもそれぞれの個性が出て、読み比べるのも面白いです。

(三年 高井心太郎)

有明の月

愛知県立名古屋西高等学校



私たち名古屋西高校は、三年生四人と一年生一人で取り組んでいます。主な活動は、文化祭で発行する「有明の月」という部誌の作成です。内容は、小説、俳句、短歌など、自由です。毎週木曜に集まり、雑談や読書をしたりして、とにかく自由に過ごしています。

(一年 山崎 凜珠)

Plant.

私立南山高等学校女子部

私たち南山高校女子部は春と秋の二回、部誌を発行しています。

春部誌では毎年テーマを決めて作品を書き、前年度の春部誌「Plant.」では植物をテーマに、各部員がそれに沿いつつ思い思いに執筆をしました。

また秋部誌は黎明、うつけものの二種類を毎年製作していて、古くから続いている黎明はやや格式張った、比較的新しいうつけものはそれよりも自由な作風となっています。

中高合同で部活動を行っており、現在は中学一年生から高校一年生までの計二十二名で活動しています。毎週火曜日と木曜日、三つの言葉を小説に取り込む「三題指定」、冒頭一文を固定する「一文指定」など、それぞれお題を決めて執筆、批評を行い、皆で切磋琢磨しています。

これからも文章力の向上を目指し、努めていこうと思います。

(一年 吉村 早繪)



徒然・篝火

愛知県立西尾高等学校

西尾高校文芸部は毎週木曜日に活動しています。今年は一年生が十二名入部し、部員数が十六名になりました。

今年の文化祭号には、漫画編「徒然」、小説編「篝火」の他、日常の活動の中で実施している、「お題」に基づいて描いた作品も載せてあります。部誌を個人の作品発表の場として捉えるだけでなく、ふだんの活動を発表する場と考えてみました。小品が多くなりましたが、皆で作り上げた感がよく出ているのではないかと思います。

その他にも、新入生歓迎号・体験入学号・文化部発表号を加え、年四回、部誌を発行しています。

これからもよりよい作品を作っていくよう努めています。

(二年 日浅 友里)

